

アメリカにおけるアクレディテーションの起源に 関する考察 —1910年代における連邦教育局と大学団体の 動向に着目して—

吉田 翔太郎

山梨大学アドミッションセンター

[キーワード] アメリカ高等教育史、アクレディテーション、標準化、連邦教育局、大学団体

I. はじめに

本研究では、1910年代の連邦教育局（以下、「教育局」という。）及び大学団体の動向を基に、アメリカにおけるアクレディテーションの起源に関する理解の見直しを図ることを目的とする。

現在のアメリカ高等教育の質保証は、地域アクレディテーション団体（以下、「地域別団体」という。）及び専門アクレディテーション団体、さらにそれらの連絡・調整を行う高等教育アクレディテーション協議会（CHEA）という高等教育機関による自助努力、州政府による設置認可時の審査、連邦政府による支援事業を通じた間接的な審査という“tried”の仕組みとなっており（大学評価・学位授与機構 2016）、そのあり方は、アクレディテーション団体、連邦政府、高等教育機関の三者の相互作用によって決定される（森 2010：47）。

一方、日本では、アメリカのアクレディテーションが、同僚団体による自律的な高等教育の質保証制度として理解される傾向があるとされる（羽田 2005：9）。このことは、「アメリカでは、伝統的に、大学や専門職団体が組織した様々なアクレディテーション（適格認定）団体が自発的に大学を機関単位あるいは専門分野単位で評価し」（中央教育審議会 2002）という中央教育審議会答申の記述にも表れている。

それでは関連団体による自発的なアクレディテ

ーションという仕組みはいつどのように構築されたのか。新堀(1977)は、アメリカ国内の高等教育研究に依拠しながら、その萌芽期において、地域別団体の他、全国的アクレディテーションとして、アメリカ大学協会(AAU)や連邦政府としての教育局における大学の分類・リスト作成、さらに州政府や専門別アクレディテーション団体など多様なアクターによって担われていたことに言及している。これは、金子(1993)や林(2015)も同様だが、各種アクターの資料に基づく検証に課題が残る。

一方、近年は、諸団体等の資料に基づく研究もみられる。アクレディテーションという用語の教育事典上の扱いから時代毎の実態、さらに地域別団体の成立史を概観し、萌芽期である1910年代初頭までは地域別団体も高等教育機関のアクレディテーションを行っていなかったことを指摘した前田(2003)や、カレッジ及び中等教育学校基準に関する全米会議委員会(National Conference Committee on Standards of Colleges and Secondary Schools：NCCSCSS)での検討、そして1920年代初頭のアメリカ教育協議会(ACE)によるカレッジスタンダード策定に至る動きを概観した坂本(2018)、さらに戦後改革期にアメリカから紹介されたアクレディテーションの実態に関する講演を手掛かりに、州政府による認定が中心であった可能性を示唆した日永(2008)、そして1940年代における州・州立大学によるアクレディテーションの実態を明らかにして、当時のアクレディテーションの実施主体や実施目的、実施方法の多様性や流動性を指摘した日永(2015)など

の研究である。

これらの研究は、諸大学団体や州立大学、州政府によるアクセディテーションへの関与などアクターの多様性を実証しているが、連邦政府とりわけ教育局の関わりについては、アクセディテーションを専門としない大学団体との関わりも踏まえながら、詳細に検討する余地が残されている。これは、連邦政府によるアクセディテーションへの関与という課題の指摘(前田2003)や、主要大学団体の設立時における連邦政府の関与という指摘(吉田2023)による視点である。

連邦政府によるアクセディテーションへの関与に関する先行研究を検討すると、その多くは、教育局による、1911年から1913年にかけてのカレッジ分類リストの作成からその「漏洩」による取り下げまでの「事件」を取りあげている。前田(2003)は、なぜ連邦政府がリストを作ろうとしたのかの説明が先行研究によって異なっているため検討の余地があると指摘している(前田2003:51-52)。また、「事件」後、教育局はアクセディテーションから手を引いたとされるが(Harclerod 1980)、その後も関心を寄せ、1917年以降アクセディテーションを受けた高等教育機関のリストを刊行していたことが指摘されている(新堀1977;日永2015;坂本2018)。一方で、「事件」の経緯や詳細、その後の展開は断片的であり、大学団体によるアクセディテーションの議論などとも関連づけながら、検証する余地が残されている。

以上の状況を踏まえ、本研究では、「ボランタリーな地域別団体によってアクセディテーションが担われている」という実態が、その萌芽期である1910年代に、地域の枠を超えたナショナルな議論の中で、教育局や大学団体との相互作用によって構築されたという仮説をたてている。本仮説の検証に向けて、1910年代の教育局及び大学団体の動向を対象として、それ以前の議論も踏まえつつ、教育局長や大学団体関係資料に基づき、教育局及び大学団体による高等教育アクセディテーションへの関与を明らかにすることを通して、アメリカにおけるアクセディテーションの起源に関する理解の見直しを図る⁽¹⁾。

II. アメリカ大学協会と全米州立大学協会による標準化の議論

本章では、本研究が対象とする1910年代に至る標準化の議論を概観し、1900年代に、アメリカ大学協会(AAU)と全米州立大学協会(NASU)という当時の主要大学団体が大学の標準化を模索していたことを指摘し、教育局がこの動きをどう捉えていたかを明らかにする。

AAUは「大学院教育に関する共通の関心事を検討すること」を目的として、1900年2月に、ハーバードやシカゴなどの研究大学14機関によって設立された組織である。AAUへの入会は、会則上、会員の4分の3以上の投票に根拠づけられた執行委員会の招聘によるものとされており、協会への入会資格そのものがアクセディテーションの要素を持っていた(AAU1901)。この「排他的」な要件への批判がみられ、設立後すぐに会員の拡大に関する議論が行われた(AAU1902)。さらに、1904年には、ベルリン大学によるAAU会員機関の学位のみを学士号として認める方針に対し、不公平であるという意見が寄せられたことも受け、1906年の年次総会では、大学の標準化にむけた基準を策定するために「協会の目的と範囲に関する委員会」が設置された(AAU1907)。AAUへの入会資格に関する議論は「アメリカの大学の基準」の議論でもあった。さらに、1907年には「用語に関する委員会」も設置され、翌年にかけて「コース」や「カレッジ」といった用語を定義するための議論を重ねていた(AAU1908)。

一方、「州立大学をより効率的にするような問題や計画を討議し推進すること」を目的に1895年に設立されたNASUは、設立当初、一部の州立大学による連邦資金獲得のための活動に止まっていた。次第に、国立大学構想などナショナルな構想に関心を寄せるようになり、1904年には教育局局長を副会長職に位置づけるなど、教育局との結びつきを強めていた(NASU1904)。また、NASUがNCCSCSSの設置を發議した1905年には、基準策定における州立大学の主導権を確保するために、「アメリカ大学の基準に関する委員会」

(Committee on Standards of American Universities)を設置した(NASU 1905)。しかし1905-1906年には同委員会の会合が開かれず、実質的な議論が始まるのは、当初州立大学が除外されていた、カーネギー財団による退職金支援対象に関する議論が落ち着きをみせる1907年以降のことであった(NASU 1906; 1907; 1908)。

このように、1900年代には、私立大学を含む研究大学からなるAAUと、ランドグラントカレッジを含む州立大学からなるNASUとで、アメリカの大学(American Universities)を定義する動きが同時進行していた。その後、両協会に加盟する大学関係者による「橋渡し」により、1908年から両協会の協議が行われ、基準のすり合わせがなされた(AAU 1909)。また、NASUに加盟するいくつかの州立大学がAAUに新規加盟する動きもみられていた²⁾。

では、教育局は両協会の動きをどうみていたのか。教育局は1867年に設置されたが、当初、高等教育を専門とする部署は設置されていなかった。しかし、1870年の局長レポートにおけるカレッジリストの掲載やランドグラントカレッジの統計、各種大学調査など、高等教育の調査研究に精力的であった。大学の標準化を主導するほど高等教育に対するリーダーシップを持つ組織ではなかったが、1906年には、カリフォルニア大学バークレー校教育学教授であったブラウン(Elmer E. Brown)が教育局長に着任し、国立大学構想を推し進めるなど、中央集権的な高等教育のあり方を模索し始めた。ブラウンは、このAAUとNASUの動きや、両協会での議論で「不在」となっていたカレッジ(college)について、以下の見解を示していた(United States Bureau of Education 1910)。これらの見解が次章以降で検討する動きと関連することから、以下のとおり引用する。

「この2つの組織はともに、大学の実用的な定義を作成することに関心を寄せている。この2つの定義が完全に一致するわけではないが、大きくかけ離れているわけでもない。この問題に関して、両団体が共通の理解に至ることが大いに望まれる。」

「上記の大学協会に相当する範囲と性格を持つ全

国的なカレッジの協会は存在しない。(中略)アメリカの大学がそうし始めたように、アメリカのカレッジが集まって、自分たちの仕事を共通の、そして全国的な仕事として認識することが望まれている。」

Ⅲ. 教育局とカレッジのリスト

本章では、教育局によるアクレディテーションに関する動向について、1911年から1913年にかけてのカレッジ分類リストの作成からその「漏洩」による取り下げまでの「事件」の詳細を中心に概観する。

1910年に教育局に大きな変化が訪れる。ブラウンの尽力もあり、1910年11月には高等教育課専門官が配置されることとなった。初代専門官には元アリゾナ大学学長のバブコック(Kendrick C. Babcock)が着任した。バブコックは、着任直後、AAU年次総会に関連して開催された大学院部長の会合に出席し、そこで、大学院生の供給源として機能する能力を備えたカレッジと、その能力を備えていないカレッジとを分類し、暫定的なリストを作成して送付するよう緊急の提案を受けた。この提案は、当時大学院への進学者が急増しており、機関の質を維持するためにも、学生を大学院に送る全国の小規模カレッジの実状を把握することが必要だったことが背景にある。その作業は、教育機関自らによってではなく、利害関係の無い第三者に依頼することとされ、配置されたばかりの高等教育専門官に白羽の矢が立った(Babcock 1911; Claxton 1912)。なお、バブコックは教育局に移る直前に、NASUの公認検査官に任命され、基準に関する委員会の活動の一環としても、本作業に携わることになった(NASU 1910)。

ブラウンは、この仕事の大きさと難しさを認識していたが、この仕事がかまれば良い結果が得られることも予見しており、この業務をバブコックに担当させたという(Claxton 1912)。高等教育専門官の最初の「手柄」ということだろうか、バブコックはこの業務について「教育機関が授与する学位の価値を正確に把握するという、長期にわたる困難で繊細な作業に対する、同局の綿密な計画を実現する第一歩」であると前向きに捉えていた(United States Bureau of Education

1912a)。そして大学院が学士号をどのように受け入れているか、また、学士号を取得した者が修士号を取得するためにどれだけの研究や学習をしなければならないかによって、大学を予備的に分類する作業に取りかかった⁽³⁾。バブコックは10ヶ月間のうちに主要な大学院を訪問し、大学院部長などとコミュニケーションをとりながら、350校近くの大学の目録、統計報告書などの研究を続けた。そして1911年秋までに、344機関の調査を完了させ、以下の4つのクラスに分類した(Babcock 1911)。

クラス I (59機関)

学士号取得後1年で、大規模な大学院のいずれかで修士号を取得できる教育機関

クラス II (161機関)

その卒業生が、大規模な大学院のいずれかで修士号を取得するためには、1年以上の通常の大学院での学習が必要となる教育機関

クラス III (84機関)

修士号取得に2年を必要とするほど、入学や卒業の基準が低い、あるいは不確かである、あるいは管理が緩い教育機関

クラス IV (40機関)

学士号が、上記のような標準的な大学の学士号と同等になるには、およそ2年足りないような教育機関

この分類の真意について、バブコックは、あくまでも「20校または25校の大学院および専門職大学院の判断の相関関係」であり、「教育局が独自に調査した結果の判断の表明」ではなく、「1年間かけて、彼らの実践を相関させる際に行った誤った判断を修正してもらい、その後、関係する全てのカレッジに送ることができ改訂版を発行し、カレッジが大学院とこの問題について議論する」ことを企図していたとする(NASU 1912)。

しかし、1911年11月、校正の便宜を図るために冊子化したリスト200部を関係機関へ送ったが、事務処理上のミスにより「機密保持」のマークが付いてい

なかったため、政府文書保管所や図書館に送られて公になった。このミスが意図的なものか、そうでないのかは明らかではないが、先行研究で言及される「漏洩」「流出」はこのことを指す。

その後、連邦政府が大学を分類したとして、主に低級に分類された機関から大きな反発があった。先にみたリスト作成の意図からすれば、この批判は「誤解」であった。1912年10月には、各種のコメントを踏まえた改訂版がつけられ、大学院部長等に今回は「秘密裏」に送付された。なお、ブラウンの後任の局長であるクラクストン(Philander P. Claxton)によって発出されたリストに関する説明文も、「謝罪」ではなくあくまでも趣旨の説明が主な内容となっていた(Claxton 1912)。さらに「不当に」低級に分類された機関へは、「当局は喜んで設備、要件、基準、作業の調査を引き受け、評価を是正させるためにできるあらゆる方法で支援する」とし、「外部からの率直な、しかし偏りのない批判は、その管理・運営を任されている人々が気づいていなかった(中略)欠陥や弱点を明らかにする」と強気で行為の正当性を主張した。

なお、リストの作成を提案した大学院部長をはじめとするAAU加盟機関からの評判も良く、1912年11月にAAU年次総会で行われた大学院部長会議において、「学士号に関する米国の大学の非常に貴重な暫定的分類を評価し、その調査が継続されることを望む」ことを決議したが(AAU 1912)、1913年2月にタフト大統領によってリストの発行・配布が中止となり、後任のウィルソン大統領もその公表を認めず、同年5月にバブコックは教育局を辞任した(Lykes 1975)。

AAUは、1913年11月の年次総会で、教育局のリスト改訂版の出版を求める大統領宛の書簡を出すことに合意するとともに、協会内に「大学の分類に関する委員会」を設置した。そして、リストの再出版が実現しないことになると、自ら分類に着手することとなった。同委員会委員長にはイリノイ大学に移っていたバブコックが就いている。バブコックは総会で、「教育局が行った暫定的な結果の公表は最良の計画ではなかった」としつつも、分類の意義について「現在の混沌とした組織から、カレッジや大学として立派な地位を

占める各機関の目的、機能、基準を徐々に明確に定義していかなければならない」とし、今後は、AAUやNASUが中心となり、教育局や北中部協会(NCA)、カーネギー教育振興財団などと協力関係を築くことが最善であると語った(AAU 1913)。

IV. アメリカカレッジ協会設立と教育局

前章では、教育局がリスト作成を通じたカレッジの質向上を企図していたことを明らかにしたが、本章では、その後の動向について、アメリカカレッジ協会(AAC)設立との関係に着目して概観する。

全米教育協会(NEA)第39回年次総会(1900年7月)において、シカゴ大学学長ハーバーが「小規模カレッジ(small college)の現状と展望」と題する講演を行った。ハーバーは、小規模カレッジのいくつかの欠点を挙げた上で、少なくとも20~25パーセントのカレッジは、アカデミーとほとんど変わらない教育しかしておらず、カレッジという言葉がこれらの機関によって誤用されていると批判し、少なくとも200校をジュニアカレッジに転換することを提言した(NEA 1900)。この内容は12年後に教育局関係者に度々引用される。

前章でみた「事件」後、バブコックは、上記のハーバーによる講演を引用しながら、当時隆盛していたジュニアカレッジ運動に触れている(United States Bureau of Education 1913)。また、同年、教育局退任後に開催されたAAU第15回年次総会第3セッション「カレッジと大学のさらなる連携」と題する講演の中でも、ハーバーの発言を引用している(AAU 1913)。局長であるクラクストンも、1913年度教育局長レポートにおいて、「200から300の小規模なカレッジをジュニアカレッジとし、その全力を最初の2年間のカレッジの仕事に費やすべき」と同様の主張を展開していた(United States Bureau of Education 1914)。

この主張が先の「事件」の反動なのかは検証する余地があるが、教育局関係者による上記の主張はリベラルアーツカレッジ関係者の危機感を煽ることとなった。しかし、研究大学中心のAAU、州立大学からなるNASUにおける基準策定に関する議論では、カレッジ教育の問題には真剣かつ組織的な関心が欠けている

と捉えられた。そのため、キリスト教教育委員会協議会(Council of Church Boards of Education)での議論を基に、リベラルアーツカレッジ学長による議論の場として、1915年1月にAACが設置された(AAC 1915)。

AACの第1回年次総会では、「カレッジの機能・標準化」のほか、当時隆盛していた学制改革も議論された。この時期には、初等中等教育の年限を、これまで普及していた8-4制とは別に、初等教育を縮小し、中等教育の年限を延長した上でジュニアハイスクールの導入により二分する6-3-3制を導入する動きが一部でみられていた。この制度構想にあたって、アッパーアイオワカレッジのクーパー(R. Watson Cooper)は、中等教育の最後の2年間とカレッジ最初の2年間が重複しており、これがカレッジの役割を完全に排除するものであるという解釈を示した。そして、カレッジが「脇役」であり「干渉」と扱われていることに苦言を呈し、カレッジ関係者の結束を呼びかけた(AAC 1915)。

教育局は、この動きをNASUやAAU以外の大学団体による標準化の動きとして注視していた。クラクストンは、NASU年次総会(1913年11月)の講演で「すべての高等教育機関の代表者を集めた協会ができれば、それは良いことだと私は考えている」と大学団体横断的な組織の必要性を語っており、AACの設立を好機とみたのである(NASU 1913)。

「事件」後の教育局は、先に見た考えに基づき、諸大学団体横断的な活動に従事して間接的に関わることとなる。1914年2月にはバブコックの後任として局長に着任したクラーク大学ドイツ語教授であったケイベン(Samuel P. Capen)は、AAC第1回年次総会での講演で、バブコックのリストについて「分類は、正当であり望ましいものである」と肯定的な見解を示し、「カレッジに関する信頼できる情報が圧倒的に不足しており、カレッジの教育と運営の重要な局面が全て公表されない限り、分類や標準化の問題は満足のいく形で解決されない」と強調した。そして、団体設立を祝うのではなく、1915年に設置された高等教育統計委員会(Committee on higher educational statistics)への委員選出を淡々と依頼し、AAC会長の同意を得た(AAC 1915)。

この委員会は、全国規模でカレッジや大学を分類することの妥当性を議論することを目的としたもので、NCAなどの地域別団体、全米教育協会（NEA）、そしてAAU、NASU、AAACESなどの主要大学団体関係者が構成員となっていた。教育局は、先に見た「事件」を一つのきっかけとして、リベラルアーツカレッジを含む諸大学団体横断的な検討体を実現させた。委員会は1915年5月の会合において、教育機関をクラスに分類することを試みてはならないこと、カレッジと大学の資源と設備、そして可能な限り教育的・管理的効率を明らかにするための重要な調査を実施することを提言した。そして、委員会は、リベラルアーツカレッジやティーチャーズ・カレッジなど、様々なタイプの機関に関するデータを個別に調査し、その結果を報告することを計画していたが、第一次大戦の影響により、完了したのはリベラルアーツカレッジに関する調査のみであった。なお、調査の過程で、AAU代表者と南部協会代表者、そしてケイペンからなる「カレッジスタンダードの定義に関する小委員会」が組織されたが、1918年に提案されたのは、カレッジの定義ではなく、「成功するリベラルアーツカレッジの必要条件案」として、収入や教授数、授業時間数や入学条件といった13項目に係る条件にとどまった（Capen 1918）。

なお、教育局は1917年に、各大学団体（AAU、AAC、NCAなど）や州立大学、州教育省による大学の基準を整理したリストである Accredited Higher Institutions も刊行している。これはクラクストンが、カレッジに関するより明確な基準の確立に貢献することを企図し、ケイペンに作らせたものである。具体的な内容は先行研究にゆずるが、その中には、「掲載されていることは、政府の承認を意味するものではなく、教育局は、機関の格付けや標準化を試みていない」という記載がある。教育局が分類を行ったという「誤解」を招くことがないように強調している（Capen 1917）。ここからは、ただし書きをつけてまでも、標準化に資する取組みを模索していたことが窺える。

V. おわりに

本稿では、1910年代の教育局及び大学団体の動向

を対象として、大学団体や教育局の資料に基づきながら、当該団体等が高等教育のアクセディテーションにどのように関わってきたのかを明らかにしてきた。ここではその結果をまとめ、今後の課題を述べる。

かねてから高等教育やその標準化に高い関心を示してきた教育局は、1900年代に行われていた主要な二つの大学団体による標準化に関するナショナルな議論に基づき、新設された高等教育課において、AAUやNASUとの協働によりカレッジを分類に向けたリストを作成した。その分類は、教育局独自の判断によるものではなく、大学院部長らの見解を暫定的にまとめたものであったが、意図せずに公となり、教育局にとって不本意な形で「誤解」され批判を受けた。そこで、教育局関係者は有力者による過去の講演を持ち出し、小規模カレッジのジュニアカレッジへの転換や、諸データ公表の必要性を主張するなど、より強硬な姿勢を見せながら標準化に向けた取組の必要性を主張し続けた。一方、教育局の姿勢や、カレッジ不要論につながりかねない学制改革の議論は、リベラルアーツカレッジの結束をAAC設立という形で助長した。教育局は、諸大学団体を統合する高等教育統計委員会を設置し、1900年代に当初競争的な関係にあったAAUとNASUという主要大学団体、設立直後のAAC、そしていくつかの地域別団体の共同体の結成を実現させた。これは1910年代初頭に教育局関係者が示していた構想の表れでもあった。最終的に教育局が直接カレッジの分類に関与することはなかったものの、教育局はアクセディテーションの調査や議論には精力的であった。

本研究では、1910年代におけるアクセディテーションの議論が、教育局と大学団体というアクターが密接に結びついて行われていたことを明らかにした。このことは、「ボランティアな地域別団体によってアクセディテーションが担われている」という特徴が、ナショナルな議論の中で構築された可能性を示唆するものである。一方、本研究では、同時期に大学のアクセディテーションを開始する地域別団体の動向は扱っていない。今後は地域別団体における議論の詳細を検証することで、アメリカにおけるアクセディテーショ

ンの起源を更に明らかにできるだろう。さらに、それが1920年代のACEカレッジスタンダード委員会の議論にどうつながっていくのかという「その後」や、アクレディテーションの起源のさらなる解明に向けて、2章で概観した大学団体での議論の詳細、そして19世紀の教育局及びNEAでの議論も検討する余地が残されている。これらについては今後の課題としたい。

【注】

- (1) アクレディテーション (accreditation) の定義は、「適合認定」として「高等教育の質保証の文脈において、機関やプログラムの教育活動の状況が一定の水準や適切さを有していると判定すること」(大学改革支援・学位授与機構 2021) とされるが、本稿では同様の行為、例えば基準策定による団体への入会資格の設定、標準化 (standardization) や分類 (classification) などを広く捉えた概念として用いる。
- (2) AAU設立以来、協会に新規加盟したのは1904年のヴァージニア大学のみであったが、1908年に3機関(イリノイ大学、ミネソタ大学、ミズーリ大学)、1909年に4機関(インディアナ大学、アイオワ大学、カンザス大学、ネブラスカ大学)が新規に加盟している。これらの動向はアクレディテーションの起源という観点からも重要だが、稿を改めたい。
- (3) 局長レポートに掲載されるカレッジのリストについて、1912年刊行分からは「学位授与の認可を受けていること、明確な入学基準を設けていること、標準的なカレッジレベルの授業を少なくとも2年間行っていること、カレッジに在籍する学生が20名以上いること」という基準に適合した機関のみが掲載されるようになり、教育局による一種のアクレディテーションに相当する行為がなされていた(United States Bureau of Education 1912b)。

【参考文献】

金子忠史(1993)、『変革期のアメリカ教育 大学編 新版』東信堂、97-121頁。

- 坂本辰朗(2018)、「大学アクレディテーションとアメリカ教育審議会」『大学論集』第50集、17-32頁。
- 新堀通也(1977)、「第2章 アクレディテーションとアメリカの高等教育」天城勲・慶伊富長編『大学設置基準の研究』東京大学出版会、35-75頁。
- 大学評価・学位授与機構(2016)、『アメリカ合衆国の高等教育・質保証システムの概要』、20-21頁。
- 大学改革支援・学位授与機構(2021)、「適合認定 Accreditation」『高等教育に関する質保証関係用語集』<https://niadqe.jp/glossary/5352/> (最終閲覧日:2023年3月29日)
- 中央教育審議会(2002)、「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について(答申)」
- 林雅代(2015)、「アメリカ高等教育のユニバーサル化の過程—軍人教育プログラムを中心に」『社会と倫理』第30号、185-195頁。
- 日永龍彦(2008)、「戦後改革期における大学のアクレディテーションに対する理解」『大学評価研究』第7号、93-101頁。
- 日永龍彦(2015)、「戦後大学改革に影響を与えた米国のアクレディテーションの実態—1940年前後の動向に焦点をあてて—」『現代社会と大学評価』第11号、121-141頁。
- 羽田貴史(2005)、「高等教育の質保証の構造と課題：質保証の諸概念とアクレディテーション」広島大学高等教育研究開発センター(編)『高等教育の質的保証に関する国際比較研究』広島大学高等教育研究開発センター、1-13頁。
- 前田早苗(2003)、『アメリカの大学基準成立史研究「アクレディテーション」の原点と展開』東信堂。
- 森利枝(2010)、「米国における高等教育機関・アクレディテーション団体・連邦政府の関係について」『大学評価研究』第9号、1-13頁。
- 吉田翔太郎(2023)、「アメリカにおける大学団体の設立に関する考察—1880年代末から1920年代初頭にかけての連邦教育局との関係に着目して—」『大学経営政策研究』第13号、129-141頁。
- AAC(1915). Bulletin, Vol.1, No.1, pp.39-47, 141-150. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101066079185>

- (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1901). Journal of Proceedings and Addresses of the First and Second Annual Conferences, The Association of American Universities. pp.5-6. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475639> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1902). Journal of Proceedings and Addresses of the Third Annual Conference, The Association of American Universities. pp.27-37. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475647> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1907). Journal of Proceedings and Addresses of the Eighth Annual Conference, The Association of American Universities. pp.10. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475688> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1908). Journal of Proceedings and Addresses of the Ninth Annual Conference, The Association of American Universities. pp.13. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475696> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1909). Journal of Proceedings and Addresses of the Tenth Annual Conference, The Association of American Universities. pp.65-67. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475704> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1910). Journal of Proceedings and Addresses of the Eleventh Annual Conference, The Association of American Universities. p.7. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475712> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1912). Journal of Proceedings and Addresses of the Fourteenth Annual Conference, The Association of American Universities. p.17. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475746> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- AAU (1913). Journal of Proceedings and Addresses of the Fifteenth Annual Conference, The Association of American Universities. p.21-22,48-55. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076475753> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- Babcock, Kendrick C. (1911). A Classification of Universities and Colleges with Reference to Bachelor's Degrees, <https://ia600307.us.archive.org/23/items/classificationof01unit/classificationof01unit.pdf> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- Capen, Samuel P.(1917). Accredited Higher Education, U.S. Bureau of Education Bulletin 1917, No.17, Washington, D. C. Unites States Government Printing Office. <https://files.eric.ed.gov/fulltext/ED540853.pdf> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- Capen, Samuel P. (1918). Resources and Standards of Colleges of Arts and Sciences. Report of a Committee Representing the Association of Higher Educational Statistics, U.S. Bureau of Education Bulletin 1918, No.30, Washington, D. C. Unites States Government Printing Office. <https://qr.paps.jp/EivyO> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- Claxton, P. P. (1912) . An Explanatory Statement in Regard to "A Classification of Universities and Colleges with Reference to Bachelor's Degrees", United States Bureau of Education. <https://onl.bz/biqADgz> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- Harcleroad, F. F. (1980). Accreditation, American Association for Higher Education, Washington DC. pp.20-24.
- Hawkins, Hugh.(1992). Banding Together : The Rise of National Associations in American Higher Education, 1887-1950. Johns Hopkins Univ Press. pp.90-94.
- Kelly, Fred J. Frazier, Benjamin W. McNeely, John H. Ratcliffe, Ella B.(1940). Collegiate Accreditation by Agencies within States, U.S. Office of Education Bulletin 1940, No.3, Washington, D. C. Unites States Government Printing Office.
- Lykes, Richard W. (1975). Higher Education and the United States Office of Education, 1867-1953

- Bureau of Postsecondary Education, United States Office of Education. pp.43-51.
- NASU (1904). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America 1904. pp.9-27. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580636> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1905). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America 1905. pp.65-85. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580685> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1906). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America No.4 1906, p.16. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580735> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1907). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America No.5 1907, pp.46-58. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580784> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1908). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America No.6 1908, pp.142-257. <https://hdl.handle.net/2027/njp.32101076519162> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1912). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America Volume Ten 1912, pp.45-49. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580545> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NASU (1913). Transactions and Proceedings of the National Association of State Universities in the United States of America Volume Eleven 1913, pp.302-306. <https://hdl.handle.net/2027/osu.32435052580594> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- NEA (1900). Journal of Proceedings and Addresses of the Thirty-Ninth Annual Meeting. pp.64-87. <https://hdl.handle.net/2027/miua.0677752.1900.001> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- The American Council on Education (1921). The Educational Record, Vol2, No.3, pp.92-99. <https://hdl.handle.net/2027/hvd.32044102878873> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- United States Bureau of Education (1910). Report of the Commissioner of Education for the year ended June 30, 1910, Vol.1, p.9. <https://hdl.handle.net/2027/coo.31924097879641> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- United States Bureau of Education (1912a). Report of the Commissioner of Education for the year ended June 30, 1911, Vol.1, pp.37-44. <https://hdl.handle.net/2027/coo.31924097879666> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- United States Bureau of Education (1912b). Report of the Commissioner of Education for the year ended June 30, 1911, Vol.2, pp.883-934. <https://hdl.handle.net/2027/coo.31924097879666> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- United States Bureau of Education (1913). Report of the Commissioner of Education for the year ended June 30, 1912, Vol.1, pp.97-98. <https://hdl.handle.net/2027/umn.31951000865122i> (最終閲覧日：2023年6月30日)
- United States Bureau of Education (1914). Report of the Commissioner of Education for the year ended June 30, 1913, Vol.1, pp. XXXIX- XLII. <https://hdl.handle.net/2027/umn.31951000865108c> (最終閲覧日：2023年6月30日)

The Origin of Higher Education Accreditation in the United States: Focusing on the Federal Bureau of Education and Higher Education Associations in the 1910s

※ Shotaro YOSHIDA

[Key Words]

History of Higher Education in the U.S., Accreditation, Standardization, Federal Bureau of Education, Higher Education Association

[Abstract]

This study aims to identify the trends of the Federal Bureau of Education and higher education associations in the 1910s, which have not been the focus of previous studies, to clarify how these organizations were involved in higher education accreditation and what kind of discussions they had developed.

The results revealed that based on national discussions in higher education associations during the 1900s, the Bureau worked with the main higher education associations to develop a classification of colleges that summarized the views of each institution. Later, because the intent of the classification was “misunderstood” when it was leaked, the Bureau continued to advocate the need for the classification in a more forceful manner, bringing up speeches by influential figures in the past to recommend the conversion of small colleges to junior colleges. In addition, it became clear that the committee was energetic in its research and discussion of accreditation, including the establishment of a committee across various higher education associations and the publication of related reports.

Finally, this indicates that the accreditation debate in the 1910s was conducted in close cooperation between the actors of the Bureau and the higher education associations.

※ Admission Center, University of Yamanashi